

今回は
肝臓の病気に
ついてのお話だよ！

マンガで学ぶ予防接種 ～染子先生のおはなし～

その⑥

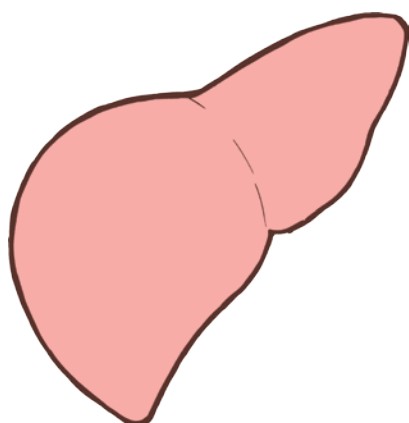
B型肝炎ってなあに？

国立感染症研究所 感染症疫学センター

B型肝炎？

学くん

染子先生



B型肝炎ウイルス（HBV）の感染が原因で起こる肝炎のことを「B型肝炎」といいます。急性肝炎となり一過性で回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。稀に、劇症肝炎といって激しい症状から命にかかわる場合もあります。また、慢性肝炎から肝硬変・肝がんになることがあります。特に乳幼児期に感染すると、持続感染（キャリア）の形を取りやすいことが知られています。

赤ちゃんも
B型肝炎に
なるの？

B型肝炎ワクチンは、
B型肝炎ウイルスによる
急性肝炎や慢性肝炎、さらには
将来の肝硬変、肝がんを
防ぐためのワクチンなの

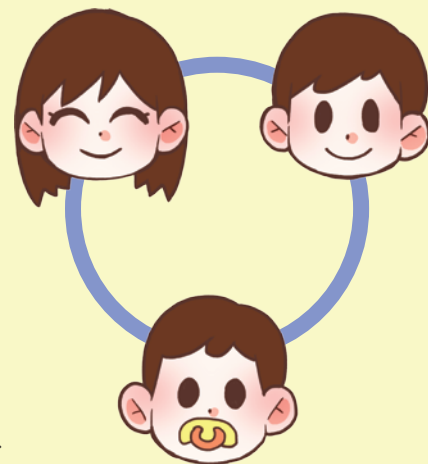
肝炎になることもあるけど、
赤ちゃんの時に感染すると、
キャリアになることが多いの。
母子感染のほか、血液や体液で
感染する可能性もあるから、
赤ちゃんの頃からの予防が望ましいの。
さらに、子どもの頃の方が大人よりも、
ワクチンで免疫がつきやすいことが
知られているのよ。

B型肝炎ウイルスの感染は、B型肝炎ウイルスが含まれた血液等に直接触れた場合（お母さんがHBs抗原陽性の場合、出産時に感染することがあります）や、B型肝炎ウイルスを持っている人との性的接触などによって起こることがあります。

母子感染の予防には、HBs抗原陽性のお母さんから生まれた赤ちゃんに、出生後できるだけ早くB型肝炎ワクチンとB型肝炎ウイルスに対する抗体を含んだ免疫グロブリン製剤を注射します。また、身近な家族がHBs抗原陽性の場合、感染することがあります（水平感染）。

そこで、2016年10月から広く接種されることが望ましいワクチンとして、0歳の赤ちゃんの定期接種に導入されました。

ただし、母子感染予防の場合は、定期接種ではなく、健康保険で受けます。

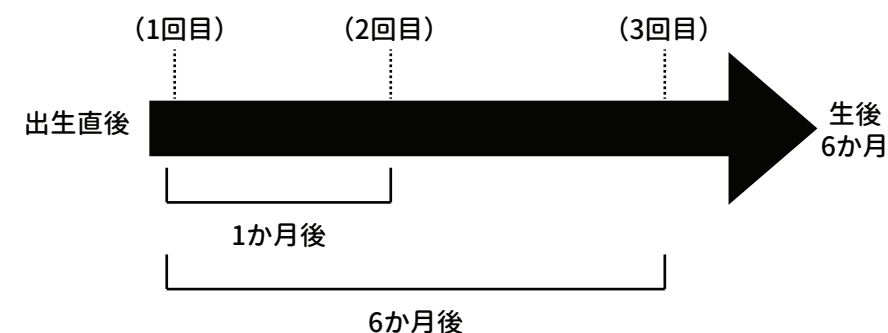


母子感染予防：HBs抗原陽性のお母さんから生まれた赤ちゃんの場合(健康保険適用あり)

〔接種間隔・回数〕1回目は出生直後(生後12時間以内が望ましい)、

2回目は1回目の1か月後、3回目は1回目の6か月後
必要に応じて追加接種を行います。

いずれも1回に0.25mLを注射します。

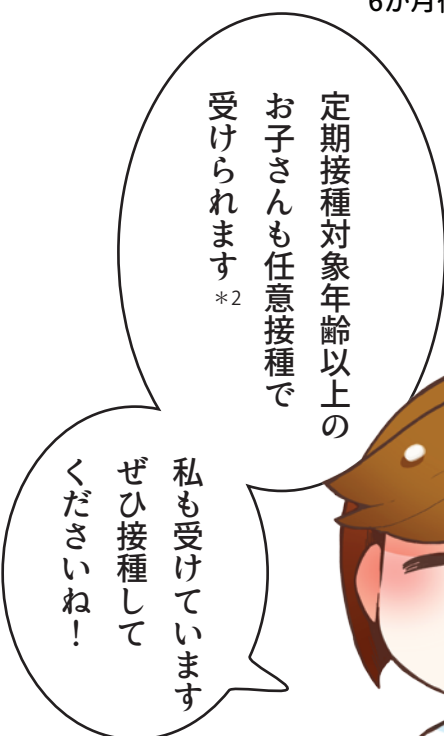


接種方法は
「水平感染予防」と
「母子感染予防」の
二つがあるんだね！

水平感染予防

〔接種年齢〕 1歳未満(標準的な接種年齢：生後2か月以上9か月未満)

〔接種間隔・回数〕 27日(いわゆる4週間)以上あけて2回、3回目は1回目から
139日(いわゆる20週間)以上あけて。
いずれも1回に0.25mLを注射します。



定期接種対象年齢以上の
お子さんも任意接種で
受けられます
*2

私も受けています
ぜひ接種して
くださいね！



*2 年齢によって1回接種量が異なります

10歳以上……0.5mL

10歳未満……0.25mL

内容に関するお問い合わせは、国立感染症研究所 感染症疫学センター第三室(予防接種室)まで。